

「報恩講」

高木 恵教

今月11月は、宗祖親鸞聖人の御命日です。その親鸞聖人の御恩徳を讃え、お応えしていく行事が報恩講です。

まず、今月11月の21日から28日の間、京都の東本願寺において御正忌報恩講が勤められ、それ以降、各地の別院、寺院において報恩講が勤められます。

そのことから、私ども真宗門徒は元来、宗祖親鸞聖人の御恩徳を讃え、お応えしていく報恩講によって、その年その年の一年の生活は締めくくられ、始まっていくものであるといえます。

思えば、宗祖親鸞聖人は僅か9歳のときに得度・出家をされ、29歳のときに法然上人と出会い、その後、流罪に遭われたり、まさに波瀾に満ちた生涯でありました。

そんな親鸞聖人も、曾孫様の覚如上人がお書きになられた『御伝鈔』に依れば、亡くなられる一ヶ月前は、御身体の具合が思わしくないものの、仏恩の深きことを述べられ、称名念仏の絶えぬ生活を送られていたことを窺い知ることができます。

やはり、宗祖親鸞聖人もまた、ひとりの念仏者・念仏に生きるひととして、波瀾に満ちた生涯ではあったものの、晩年はそんな生涯を回想される静かなものであったと私は感じます。

さて、いよいよ京都の東本願寺、そして各地の別院、寺院で報恩講が勤められます。改めて私どもは、報恩講に参加して、宗祖親鸞聖人の御恩徳を讃え、お応えしていく生活の第一歩を踏み出そうではありませんか。